

平成25年度 冬の学習会

2月1日土曜日。ホテルルビノ京都堀川にて、近畿教育オーディオロジー冬の学習会が開催されました。冬の京都を満喫したくなるような穏やかな日の中、101名の参加者が集いました。

聴覚障害児への支援について、体験を通して多角的にお話くださった芦田先生、人工内耳の最新情報から再生医療の可能性まで教えてくださった伊藤先生に、数多くの感謝と感想が寄せられました。

参加者アンケートより



講演Ⅰ

きこえに課題のある子どもへの支援
～わかりやすい授業の視点を考える～

芦田 雅哉 先生

（京都府立聾学校舞鶴分校 総括主事
京都府北部聴覚支援センター長）

・具体的な体験を入れた内容で、とてもわかりやすかったです。

・知らない言葉を類推できなかつたり、聴き取りに不安があると、他の人の表情や仕草がとても気になってしまつたりすることなどが体験でき、貴重でした。

・子どものきこえをわかっているつもりで、わかっていなかったことや抜け落ちやすいことに気づかせてもらえました。

・こどものきこえに配慮した授業や生活の中での支援を、自分なりに再度確認して改善点などを考えていきたいと思いました。

・きこえの困難に対する理解や支援について、体験的に感じるための方法や、ことばの習得につなげるための方法について、理論的に教えていただき参考になりました。

・難聴が軽くても障害が軽いとは限らないことを頭の中に留めおいておきたいです。

・校内や支援先の学校での研修にぜひ取り入れたいと思います。

・「リハーサルを増やす」取り組み、様々な場面で取り入れていこうと思いました。

・記憶に働きかける支援、学習方法が印象に残りました。



目と耳を片耳を塞いで音源を探ります

口形の読み取り体験。予想できないと・・・？



講演Ⅱ

小児人工内耳の過去・現在・未来と再生医療

伊藤 壽一 先生

(京都大学大学院医学研究科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)



- ・ 新生児聴覚スクリーニングの広まりで早期発見が可能になってきている意味でも、小さい子どもたちの聴力や補聴器装用・人工内耳について、丁寧な対応が必要だと感じました。
- ・ 両耳装用について心配する意見が出がちですが、正しい情報を知ることがまず大事だと感じました。
- ・ 人工内耳に対する認識を深めることができました。
- ・ 人工内耳の今とこれから…現在の手術法等や、再生医療の可能性をきけて良かったです。ゆっくりといねいにお話ししていただきました。
- ・ 学校側も情報収集をもっと積極的に行っていくべきだと感じました。
- ・ 小児人工内耳適応基準 (CI 2014) がどのような背景や意図をもって作成されたのかを、かみくだいて話してくださり、人工内耳をとりまく状況が理解できました。
- ・ 現状やとりまく環境、指導について、日々進歩しているのだと感じました。常にアンテナを張り学習する必要があると思いました。
- ・ 他国の状況も知ることができていろいろと考えさせられました。
- ・ 残存聴力型はこれからとても有効なのではと思いました。
- ・ 医師としての人工内耳手術に対する想いも聴かせていただき、参考になりました。

夏の講演会・講習会は京都で！！

来年度の予定

平成 26 年 8 月 7 日(木)・8 日(金) 第16回 夏の講演会・講習会(京都府立聾学校)

※ 近畿教育オーディオロジー発足以来、お世話になってきた大阪の地を離れ、初の京都での開催となります。

9 月 15 日(月) 秋の講演会 (たかつガーデン)

※ 日本教育オーディオロジー上級講座との合同開催です。

平成 27 年 1 月 31 日(土) 冬の学習会 (滋賀)

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒591-8034

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町1丁

大阪府立堺聴覚特別支援学校内

事務局長 松川 雅一

TEL : 072-257-5471

FAX : 072-257-3310

メール:kinki02062@hotmail.co.jp